

# 人格形成を規定する要因分析（III）

—Y-G検査に現れた出生の順位と同胞の性差の影響について—

## A Study of Factors Effecting on Development of Persouality (III)

—On the effecting of the order of the birth and the sex-differences of  
brother and sister on the result in Y-G Test—

高 橋 正 臣

### I 研究目的

本研究は、人格形成を規定する要因分析に関する一連の研究のうち、特に出生の順位と、同胞の性差が、性格特性の形成にどのような影響を与えていたかを、次のような仮説の検証という形式で、YG検査を通じて明らかにしようとした。

性格形成を通して、心理学的環境条件に組みこまれる要因として、家族制度、社会構造、親の育児態度、きょうだいの人間関係、遊びの構造等が指摘されるが、これらが具体的結果として、次の条件内において性格形成に相応の影響を与えるであろう。

1. 長子か末子か、ひとりっ子か。
2. 同胞が異性であるか同性であるか。

### II 研究手続き

#### 1. 研究対象

研究対象は、昭和49年、50年度に入学した芸術短期大学学生のうち、教育心理学受講の女子学生（昭和49年度入学者中○%，50年度○%）299名〔表1参照〕。研究対象の特性については、文献(1)を参照〕である。

表1 研究対象（数字は人数）

	S.49年度	S.50年度	小計	計
美術専攻者	101	111	212	299
音楽専攻者	44	43	87	

#### 2. 研究方法

研究対象に、矢田部ーギルフォード性格検査（Y-G検査）を実施。実施の期間は、各年度とも、大学入学後半年から1年までの期間である。

### III 研究結果と考察

1. Y-G検査によって測定される性格特性は、次の12である(2)。

#### Depression:

たびたびゆうつになる、理由もなく不安になることがあるなどの、陰気な、悲観的気分や、罪悪感の強さを示す特性。

#### Cyclic Tendency:

気が変りやすく、感情的で、物事に驚きやすい情緒不安定、気分変易性の強さを示す特性。

#### Inferiority Feelings:

劣等感に悩まされる、自信の欠乏などの自己の過小評価、不適応感の強さを示す特性。

#### Nervousness:

神経質で心配性、いろいろするなどの、ノイローゼ気味の強さを示す特性。

#### Lack of Objectivity:

ありそうもないことを空想する、ねつかれないなどの空想性、過敏性、主觀性の強さを示す特性。

#### Lack of Cooperativencss:

不満が多い、人を信用しないなどの不満と不信性の強さを示す特性。

#### Lack of Agreeableness:

気が短い、正しいと思うことは人にかまわず実行する、人の意見をききたがらないなど、攻撃的な強さを示す特性。この特性は、情緒不安定特性(D, C, I, N)と結合すると、社会的にも活躍する社会的活動性となる。

#### General Activity:

仕事が早い、動作がきびきびしているなどの肉体、精

面の両方にまたがる強を示す特性。

Rhathymia:

人といっしょにはしゃぐ、何時も何か刺激を求めるなどの気がるな、のんきな、衝動的な強さを示す特性。

Thinking Extraversion:

これは深く物事を考えたり、たびたび考え方をもくせがあるなどの、思索的、冥想的、反省的熟慮性傾向とは逆方向の、考えが大ざっぱでのんきな傾向の強さを示す特性である。

Ascendance:

会やグループのために働くなど、引込み思案でない、積極的な社会指導性、リーダーシップの強さを示す特性である。

Social Extraversion:

誰とでもよく話す、人と広くつきあうのが楽しみであるなど、社会的に対人接觸を好む、対人的に外向的、社交的、社会的接觸を好む強さを示す特性である。

2. 調査対象者は、同胞の数および性差により、表2に示されるようにA型～Y型までに分類され、今回は主として、〈ふたりきょうだい(A～D型)〉及びひとりっ子がとりあげられている。

A型……本人と妹

B型……姉と本人

C型……本人と弟

D型……兄と本人

X型……ひとりっ子

Y型……きょうだいが3人以上のもの

表2

同胞の型	A型 ▲ △	B型 △ ▲	C型 ▲ ○	D型 ○ △	X型 △ ▲	Y型 △ ○ △以上	計
調査対象数	28	34	37	33	34	133	299

▲(調査対象本人)、△(女子)、○(男子)

3. 〈ふたりきょうだい〉において、長子と末子にとって、性格特性上の差異が認められるか。ひとりっ子はどうか。

長子と末子のグループに類型化されるのは、A・C型

とB・D型である。

結果は表3、図1に示されるように、長子と末子との間には、性格特性上、かなり大きな差異が認められる。

表3 A・C, B・D, X型性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
A・C型	11.20	10.05	8.59	8.68	8.77	6.71	10.45	11.20	11.57	10.25	9.86	12.83
B・D型	13.34	11.40	10.45	11.54	9.72	7.33	10.25	10.19	11.16	8.04	8.66	12.22
X型	11.68	11.38	10.09	10.65	8.97	6.09	10.68	11.62	11.74	10.03	9.56	13.00

\* P<0.001    \*\* P<0.01    \* P<0.05

\*    \*\*    \*

すなわち、情緒安定性因子である、D、C、I、Nにおいて、長子は末子に較べて、かなり安定性の方向に傾き、特にN因子(神経質、心配性)の差ははっきりと有意性を示している。一般的に、長子は次子より情緒的に安定度が大きいといえよう。

反面、指導性を示すG、A、S因子はやはり長子が従来の研究結果の通りに(3)、次子の得点を上回っている。

これらの結果から、長子と次子の間には、その生育過程において、研究目的において指摘したような心理学的諸条件が性格形成上、その具体的内容分析はさせておいても大きく影響を与えてることは明らかである。

ただ一般常識的には、長子は次子に比して、内省的、熟慮的、いわゆる「石橋たたいて」のタイプが多いと思われるが、本研究ではその因子であるT因子において、次子の方が長子より内省、熟慮的である(長子 10.25で

標準点3を超え4の段階に達している、次子8.04)(4)ことは今後の研究課題として、明らかにされねばならないだろう。

〈ひとりっ子〉の場合は、生育過程を含めて、その人格形成上常に心理学的に問題とされるが、本研究結果に示される限り、予想される程の偏よりを持つ性格は認められない。情緒性因子においては次子に近く、衝動性、指導性、熟慮性においては長子に近似している。これらの結果が標本の数や、女子、芸術専攻者という要因のためか、あるいは、標本が20才前後の年令のためであるのか、今後標本を増すことによって明らかにしてみたい。

ただ3者に共通した偏よった得点を示すのが、R、S因子である。統制群ではR因子の得点9.96、S因子10.22(5)に対し、かなり上回る得点結果を示し、ひとりっ子では、S因子について標準点3の限界に達している。一般的に

### 人格形成を規定する要因分析（III）

図1 A・C型, B・D型, X型性格特性得点

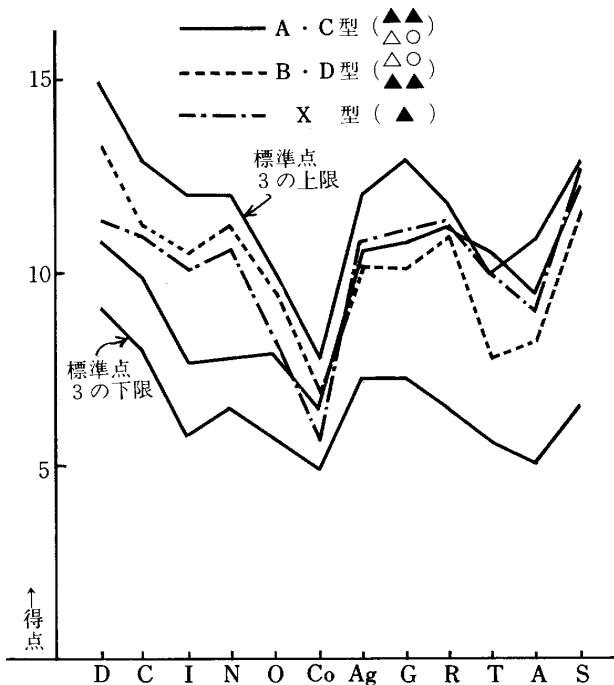
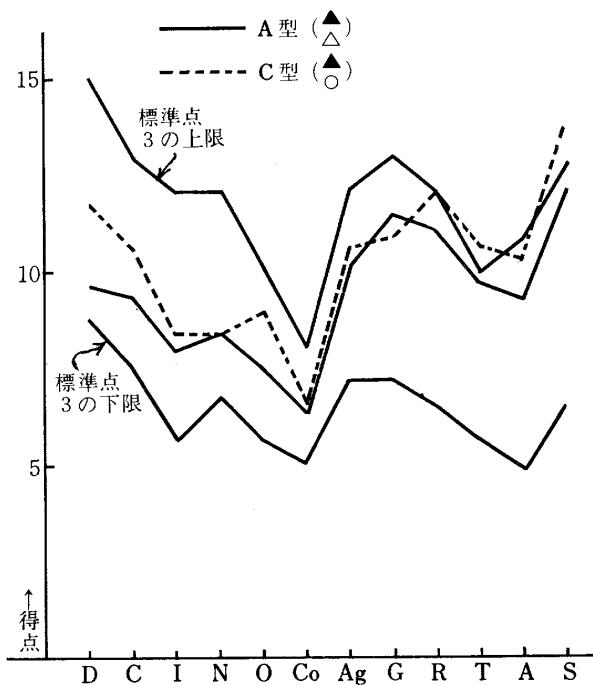


図2 A, C型性格特性得点



芸術専攻者はR, S因子が高い結果が認められてはいるが(6), それにしても予想を上回る得点であり, これは現代っ子の性格特性の一つと思われ, 年次別分析を続けて行なう必要があろう〔1965年～1971年の5年間についての性格特性の年次別変動については(6)を参照〕。

表4 A・C型性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	C	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
A型	9.79	9.61	8.46	8.68	8.14	6.64	10.29	11.46	11.14	9.93	9.36	12.21
C型	12.27	10.38	8.68	8.60	9.24	6.76	10.57	11.00	11.89	10.49	10.24	13.57

※※ P<0.01    \* P<0.05

従来の研究結果(7)によると, 弟をもつ姉の場合には年下の男子である弟の優位を認めた上で専制的関係が認められているが, 本研究においてもA, S因子に示されるように, これを裏づける結果が示されているようである。しかしその現れ方は, 姉であるより弟の場合の方が, 社交的, 対人接觸を求める人格として形成されているのは興味深い (A型 12.21, C型 13.57)。

情緒安定性については, D因子を除いては明確な有意差は認められないが, ややC型がA型より安定度が高い

4. 〈ふたりきょうだい〉において, 末子の性差によって, 長子に性格上の差異が認められるか。

末子が妹 (A型), 弟 (C型) という性格によって長子に性格上の差が認められるかを示すのが, 表4, 図2である。

と思われる。女ふたりきょうだいで姉である場合は, 親和的, 調和的関係が多いとされるが(8), この情緒安定度からみれば, それを裏づけていると思われる。

5. 〈ふたりきょうだい〉において末子である場合, 年上の同胞の性差によって, 性格上の差異が認められるか。

上記4と逆の場合であり, 末子であって年上の同胞が姉か, 兄かによって末子の性格はどのような影響を受けるかを示すのが, 表5及び図3である。

表5 B・D型の性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
B型	13.91	11.50	9.85	11.50	9.82	7.62	11.00	10.68	12.12	8.42	8.91	12.15
D型	12.76	11.30	11.06	11.27	9.61	6.73	9.49	9.76	10.18	7.68	8.39	12.30

※※※ P<0.001    \* P<0.01    \* P<0.05

きょうだい二人とも女子である場合、姉の性格は妹に対し最も調和的、親和的であるが、姉をもつた妹は、妹をもつた姉に対し対立関係が多く、分離的であるとする結果が出ているが(9)、本研究においてもB型は曲線的にもかなり振幅が大きく、特にR因子（衝動性）においては、12.12得点という標準点3を超えて、4の段階にまで達している。姉をもつ妹が何故このように高いR得点を示すかは今後の大きな問題であろう。

D型は一般的にB型に比べて安定した曲線の振幅を示

表6 A・B型、C・D型性格特性得点

性格特性 グループ別	D	C	I	N	O	Co	Ag	G	R	T	A	S
A・B型	11.85	10.56	9.16	10.09	8.98	7.13	10.65	11.07	11.63	8.81	9.14	12.18
C・D型	12.52	10.84	9.87	9.94	9.43	6.75	10.03	10.38	11.04	9.46	9.32	12.94

表6のように本研究の調査結果に関する限りでは、両者間に有意な差を示す性格特性項目は認められない。

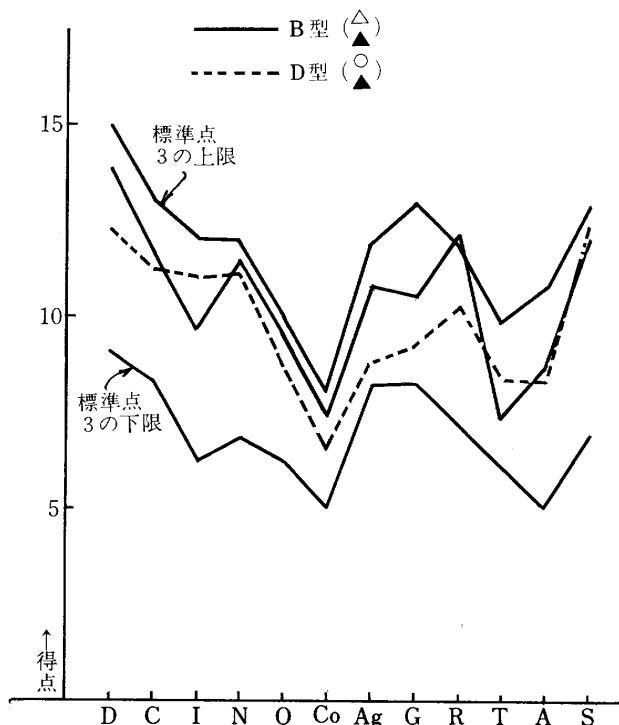
しかしこの結果は、YG検査に現わされる性格特性であり、きょうだい間の力動的な関係（調和的・親和的、

し、姉をもつよりも、兄をもつ方が社会的にも適応しやすく(Ag, Co, Oの安定)、衝動性も少ないようである。)

6. 〈ふたりきょうだい〉において、同胞が女子の場合と男子の場合とでは、性格上の差異が認められるであろうか。

ふたりきょうだいにおいて、同胞が姉か妹の場合と、兄か弟の場合、この2要因によって性格形成上の規定を受けているであろうか。この結果を示すのが、表6、図4である。

図3 B, D型性格特性得点



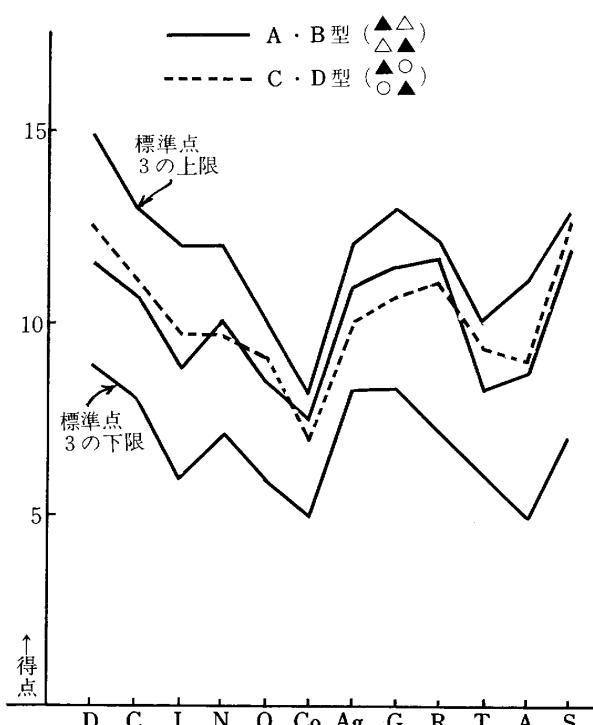
#### IV 要 約

本研究は芸術専攻者の性格特性を規定する要因に関する研究の第3報告である。

すなわち、芸術専攻者(女子)の〈ふたりきょうだい〉、及び〈ひとりっ子〉の性格特性を明らかにしようとした。

結果としては、〈ふたりきょうだい〉においては、

図4 A・B型、C・D型性格特性得点



- (1) 長子と末子間には性格特性上一般的にかなり大きな差異が認められる。
- (2) 末子が男子か女子かによって長子(女子)の性格上の差異がD, O, S特性に認められ、
- (3) (2)と逆に、長子が男子か女子かによって末子(女子)の性格上の差異がD, I, R特性に認められる。

### 人格形成を規定する要因分析（III）

- (4) 対象者（女子）が、その同胞が女子である場合（姉、妹）と、男子である場合（兄、弟）とでは、両者間にはほとんど性格上の差異が認められない。他の研究との関連で、ダイナミックな動的研究の必要性が今後の問題として残されている。
- (5) 〈ひとりっ子〉については、予想された程、統制

群や他の型との偏差は認められなかった。この結果は、ひとりっ子という要因が、20才前後という年令的要因によって統御されてしまうのか、女子という更に芸術専攻者という要因によってオーバーラップされてしまうのか、今後の標本問題として残されている。

#### （注）

- (1) 高橋正臣： 人格形成を規定的要因分析（II）  
大分県立芸術短期大学研究紀要第 1 号
- (2) 辻岡美延： 新性格検査法 1965
- (3) 諏摩武俊： きょうだいと性格 1970
- (4) 戸川行男他： 性格の形成、性格心理学講座 1967
- (5) (2)に同じ
- (6) 高橋正臣： 人格形成を規定別要因分析（I）  
大分県立芸術短期大学研究紀要 第 9 卷
- (7) (3)に同じ
- (8) "
- (9) "
- (10) "